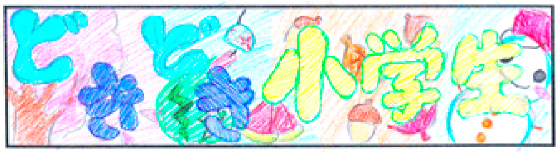
NIE特集
Newspaper In Education
毎月第2・4火曜日発行



## 槻木小

学校名　宮城県柴田町立槻木小学校　　校長　荒　宏
所在地　宮城県柴田町槻木駅西２の14の１　　児童　565人
電話　0224(56)1029

## 「槻木の詩」の謎を探れ!

# 夢や郷土愛はぐくむ

**知り隊**

私たち槻木小には、代々受け継がれている「槻木の詩」という合唱曲があります。槻木の詩は、「メタセコイアの樹の下で」「六兵衛地蔵さん」「槻木の讃歌」の3曲構成になっていて、毎年4年生が音楽発表会や町のお祭りなどで発表しています。私たちは、伝統ある「槻木の詩」の歴史や一曲一曲に込められた思いに興味を持ち、学校の資料などを調べました。

## 校木象徴に歌い継ぐ

「槻木の詩」は1994年秋、当時在職していた先生方が作詞、作曲されたそうです。

「メタセコイアの樹の下で」に出てくるメタセコイアとは、槻木小の校木です。高さ33㍍あり、学校の玄関わきに堂々とそびえ立っています。酷暑や酷寒にも耐え、天を指してまっすぐに伸びるその姿から「希望」「忍耐」の象徴とされています。歌の中でも、私たちに将来への希望を語り、苦しさにも耐え真っすぐに突き進む勇気を与えてくれます。

私たちを見つめ続けてきたメタセコイアの巨木

「六兵衛地蔵さん」に登場する六兵衛さんは、他郷から来た人で、正直温厚で慈悲心が厚い人でした。六兵衛地蔵と槻木の町には歴史的な関係があります。江戸時代の天保年間に槻木で起こった大飢饉のとき、六兵衛さんは自分が蓄えてきたお米で町民の命を救ったのだそうです。それから町内の人たちから神仏のように敬われ、地蔵を建てて祭られるようになりました。歌の中でも六兵衛さんのそんな人柄が表現されていて、歌うと私たちも優しい気持ちになることができます。

私たちの住む槻木の町は、過去から現在へと続く時間の中で、ある時は穏やかに、ある時は激しく歩んできました。明日という日を信じ、照りつける太陽のもと、したたる汗を拭いもせず、森や林を田畑へと切り拓いた人々。厳しい寒さを厭いもせず、ひたすら道を作り続けた人々。そんな祖先の思いが込められている「槻木の讃歌」は、ふるさとを大切にしようという気持ちを育ててくれます。

◇　◇

大勢の人々が未来への夢をもち、力を出し合ってつくりあげてきた槻木の町。その伝統の一つひとつを「槻木の詩」とともに、これからも大事に伝えていきたいと思います。

文・岩本一世、大沼果蓮、大沼晃太郎、小川夏佳、長田樹里、笠原緑子、須藤匡哉、門間美季（6年）

**言い隊**

### ■ エコ運動で命救おう ■

あなたは、エコキャップを知っていますか。私たちの学校ではエコキャップ運動をしています。身近なエコとは何かを考えたのがエコキャップ運動です。

現在集まったキャップの数は約3万2千個。しかし、ワクチンを1つ作るのに必要なキャップの数は800個なので、私たちが集めたキャップでは、たった40人分のワクチンしか作れません。

わたしたちの取り組みだけでは、ごく一部の人しか助けることができません。キャップは、ごみではなく救世主です。より多くの人たちの命を救うためにも、みなさんも、ぜひ運動にご協力ください。

（6年・大宮薫、加藤美月、白井美月）

### ■ 一歩踏み出す勇気を ■

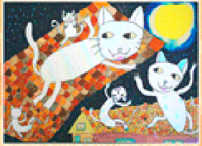
あなたは人の命を救ったことがありますか。もし困っている場面にそうぐうしたら、一歩踏み出せますか。

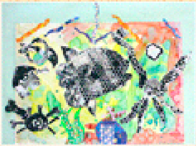
ぼくの学校には、命を救った友人がいます。踏切で転んで立てなくなったおばあさんを、4人で協力して助け出したのです。その人たちは「緊張したけれど、人の命を救ってうれしかったです」と語っていました。

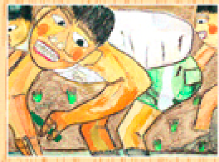
人の力になることは大切なこと、すばらしいことです。ただ、頭で分かっていても行動に移せなければ意味がありません。そのためには勇気が必要です。勇気をもって踏み出す努力を、みなさんもしてみてください。

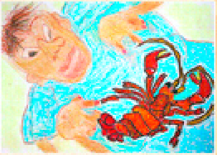
（5年・高橋まり、星裕也）

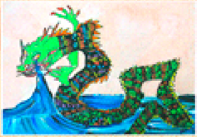
## うきうきキャンバス

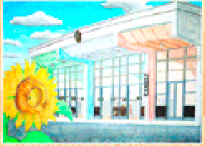

物語の絵～屋根の上の白いねこ～
4年・大泉花澄


海の中のふしぎな生きものたち
3年・桜井来希


田植えをしたよ
5年・岩井雄寛


ザリガニと遊んだよ
1年・瀬戸滉平


おはなしのえ～りゅうのなみだ～
2年・長谷部怜


わたしたちの校舎
6年・加藤早織

**教え隊**

### 伝統の鼓笛

今年5月の運動会で披露した鼓笛

## 心を一つに 感動体験

槻木小では代々鼓笛が引き継がれています。私たちの親の世代以前より行われているそうで、長い歴史が感じられます。

鼓笛の一番の見せ場は小学校生活最後の運動会です。隊形移動をしながらの演奏は非常に難しいですが、みんなの心が一つになれたときの感動はこの上ないものです。一生の思い出として心に残ります。そのすてきな演奏を５年生に引継ぎ、６年生の役目は終わります。努力、友情、責任、感謝と鼓笛から学ぶことは数多く、大切に守り続けていきたい伝統の一つです。

文・鈴木香菜、土屋千裕、渡部紗生、加藤早織（６年）

### 編集後記

「どきどき小学生」の編集に参加して、自分たちの住む槻木のことを一から考え、地域や学校の歴史や伝統、取り組みなどを知ることができました。初めは、自分の書いた記事が新聞に載る!という軽い気持ちで参加しました。途中、資料が少なく記事作りに苦労したこともありましたが、友達と協力して調べたことで、楽しく活動することができました。

今回の新聞作りを通して、何げなく暮らしていた槻木の魅力を感じることができ、また、それを多くの方々に伝えることができるというすばらしい体験をすることができました。ありがとうございました。

〈編集委員〉岩本一世、大沼果蓮、大沼晃太郎、小川夏佳、長田樹里、笠原緑子、須藤匡哉、門間美季、加藤早織、土屋千裕、鈴木香菜、大宮薫、加藤美月、白井美月、渡部紗生（6年）、高橋まり、星裕也（5年）
題字デザイン　土屋千裕、加藤早織（6年）
〈指導教諭〉渡部智喜、高橋めぐみ

次回（11月24日）は中津山小（登米市）と生出小（仙台市）です。